

貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 ・ 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	6,389,014	流 動 負 債	2,699,036
現金及び預金	3,318,303	買掛金	967,379
グループ預け金	754,438	未払金	432,436
受取手形	63,564	未払費用	379,570
売掛金	2,207,972	未払法人税等	71,216
貯蔵品	17,225	未払消費税等	219,548
その他	27,645	賞与引当金	491,240
貸倒引当金	△ 136	その他	137,645
固 定 資 産	4,652,767	固 定 負 債	2,866,301
有 形 固 定 資 産	2,491,918	再評価に係る繰延税金負債	803
建物	719,863	退職給付引当金	2,720,018
構築物	53,310	資産除去債務	30,859
車両運搬具	174	その他	114,619
機械装置	88,602	負 債 合 計	5,565,338
工具・器具・備品	89,153	株 主 資 本	5,510,827
土地	1,540,813	資本金	100,000
無 形 固 定 資 産	18,001	資本剰余金	1,195,000
ソフトウェア	3,315	資本準備金	1,195,000
電話加入権	13,990	利 益 剰 余 金	4,215,827
水道施設利用権	695	利益準備金	119,225
投資その他の資産	2,142,847	その他利益剰余金	4,096,601
投資有価証券	1,109,376	別途積立金	3,255,320
関係会社株式	40,000	繰越利益剰余金	841,281
繰延税金資産	926,018	評 価 ・ 換 算 差 額 等	△ 34,383
差入保証金・敷金	64,247	その他有価証券評価差額金	482,442
その他	3,204	土地再評価差額金	△ 516,825
資 産 合 計	11,041,782	純 資 産 合 計	5,476,444
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	11,041,782

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	金 額	
売 上 高	16,702,253	
売 上 原 価	14,297,616	
売 上 総 利 益		2,404,637
販売費及び一般管理費		1,498,194
営 業 利 益		906,442
営 業 外 収 益		
受取利息及び配当金	23,099	
そ の 他	8,612	31,711
営 業 外 費 用		
そ の 他	7,870	7,870
経 常 利 益		930,284
税引前当期純利益		930,284
法人税、住民税及び事業税	362,005	
法人税等調整額	△ 10,418	351,587
当 期 純 利 益		578,696

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

個 別 注 記 表

01. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準および評価方法
 - 子会社株式及び関連会社株式 …………… 移動平均法による原価法
 - その他有価証券
 - 時価のあるもの …………… 決算期末日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
 - 時価のないもの …………… 移動平均法による原価法
2. たな卸資産の評価基準および評価方法
 - 評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)により評価しております。
 - 貯蔵品 …………… 最終仕入原価法
3. 固定資産の減価償却方法
 - (1) 有形固定資産 …………… 定額法
(リース資産を除く)
 - (2) 無形固定資産 …………… 定額法
(リース資産を除く) なお、自社利用のソフトウェアの減価償却の方法については社内における利用可能期間(5年間)に基づく定額法を採用しております。
 - (3) リース資産
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
…………… リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法
4. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金 …………… 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般の債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
 - (2) 賞与引当金 …………… 従業員に支給する賞与に充てるため、支給見込額のうち当事業年度に対応する額を計上しております。
 - (3) 退職給付引当金 …………… 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
 - ① 退職給付見込み額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
 - ② 数理計算上の差異の費用処理の方法
数理計算上の差異は発生の翌事業年度から、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定率法により、費用処理することとしております。

5. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

…………… 当事業年度末までの進捗部分について、成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

6. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(2) 連結納税制度の適用

親会社を連結親法人とする連結納税制度を適用しております。

02. 表示方法の変更に関する注記

『「税効果会計に係る会計基準」の一部改正』の適用に伴う変更

『「税効果会計に係る会計基準」の一部改正』(企業会計基準第 28 号 平成 30 年 2 月 16 日)を当事業年度より適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。